

事後報告書

関連基礎科学系 科学史科学哲学研究室
指導教員 石原孝二 教授
博士一年 韓松錡

私は「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」を受け、2023年7月10-13日をもって中国山西省太原市で開催された第21回全国科学哲学学术会议（The 21st National Academic Conference on Philosophy of Science）に参加しました。本会議は、二年に一度開催される科学哲学分野の国際会議であり、海外で働く中国人の学者および世界中の研究者を招き、科学哲学における重要な問題や今後の発展について共に論じることを目指しています。今回の第21回大会は、コロナ禍以来初めての対面会議であり、空前の規模で研究者たちが集まってこの数年間の学術問題をまとめて検討しました。特に去年年末に公開されたChatGPTは、科学哲学者たちの関心を引き、今回の大会で自然言語処理や人工知能の倫理的問題などについて論じられました。

私は、*How to Understand Field Theory in Gestalt Psychology?*をテーマに、今回の大会で口頭発表を行いました。本発表は、私の修士論文の研究に基づきまとめた成果であり、私の研究を世界中の学者、特に心理学の哲学に関心を持つ研究者たちに共有することを目的としました。発表後、アメリカやカナダからの研究者と交流し、彼らの質問に応じて、行動に関する場の理論や本研究の私の貢献について詳しく説明しました。多くの学者との交流を通じて、今後は如何にして自分の研究を向上させるかもさらに明らかになりました。他の研究者の発表を聞いて、世界中に話題になる科学哲学のテーマがわかり、多く学ばせていただきました。



大会の開幕式

今回の大会に参加したことは、かなり有意義だったと思います。最後に、大会への参加を助成していただきまして、東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻の皆様にご心より感謝申し上げます。



集合写真